



デンタル ニュース



2026年 2月号



2月22日は「猫の日」。数字の「2・2・2」が“にゃん・にゃん・にゃん”と読める語呂合わせから、猫好きの公募で広まった日本の記念日です。「猫と一緒に暮らせる幸せに感謝し、猫とともに喜びをかみしめる日」という思いも込められています。実は猫の日は日本独自のもので、世界には8月8日の「世界猫の日 (International Cat Day)」をはじめ、国や地域ごとに“猫の記念日”があります。世界中で猫が愛されている証拠ですね。

ここで猫のお口の豆知識。猫は私たち人間のような「虫歯」になりにくいといわれています。その理は、猫は本来肉食のため臼歯がなく、食べかすが残りにくいこと。さらに、猫の唾液はアルカリ性のため、虫歯菌が生息しにくい環境であることも一因です。でも歯周病にはかかります。人にも猫にも移りますので、愛猫とのほおずりやキスは避けましょう。

一方で、残念ながら私たち人間は虫歯にも歯周病にも罹ります。毎日の歯磨き、定期的なクリーニングで、お口の健康を保ちましょう。

やなぎだ歯科からお知らせ



自分にあった歯ブラシを探しましょう



やなぎだ歯科

住 所 桜川市西飯岡539-4
電 話 0296-76-3700
診療科目 一般歯科、小児歯科、審美歯科、
インプラント、予防検診、床矯正
フッ素塗布、3Mix法

<http://www.yanagida->

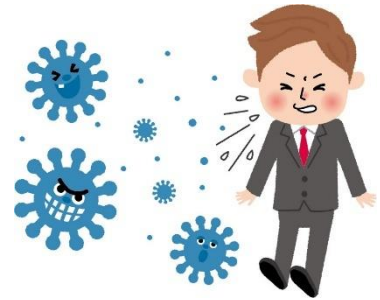


診察時間	月	火	水	木	金	土
午前	9:00 ~12:00	9:00 ~12:00	9:00 ~12:00	9:00 ~12:00	9:00 ~12:00	9:00 ~12:00
午後	14:00 ~18:30	14:00 ~18:30	14:00 ~18:30	14:00 ~18:30	14:00 ~18:30	14:00 ~17:30
休診日：日曜・祝日						

歯医者でできるインフルエンザ予防とは！？

インフルエンザの予防というと、手洗いやうがい、ワクチン接種を思い浮かべる方が多いと思います。しかし近年の研究により、インフルエンザウイルスが体に感染する際、歯周病がその感染を助けてしまうことが分かってきました。

インフルエンザウイルスは、鼻や口の粘膜から体内に侵入します。ウイルスは、細胞表面の特定の部分に結合することで体内に入り込みます。通常は、ウイルスが単独で細胞に結合しようとしますが、ところが、お口の中に歯周病菌が多いと状況が変わります。歯周病菌が出す毒素（酵素）が細胞表面に作用し、ウイルスが入りやすい状態を作ってしまうのです。さらに歯周病菌は、インフルエンザウイルスを体の奥深くの細胞にまで運び、感染や重症化を助長する働きも持っています。



歯周病菌は口の中に常に存在する細菌ですが、口腔環境が悪化して歯周病を発症すると、「インフルエンザに感染しやすい」「重症化しやすい」という二重のリスクを抱えることになります。

★歯周病だと薬が効きにくくなる！？

また、歯周病を発症していると、体内で増えるインフルエンザウイルスの量が21～28倍になるという報告があります。そのため、「タミフル」や「リレンザ」などの抗インフルエンザ薬の効果が十分に発揮されにくくなる可能性が指摘されています。

一方で、高齢者を対象とした研究では、歯科の専門家による口腔ケアを受けた人は、インフルエンザの発症率が約10分の1に減少したという報告があります。これは、お口の中を清潔に保つことで歯周病菌などの細菌が減り、ウイルスが体に入り込みにくい状態が保たれたためと考えられています。

さらに、口腔ケアによって唾液の分泌が促されます。唾液にはウイルスを防ぐ働きがあり、お口はインフルエンザの侵入口を守る「最初の防御壁」になります。その結果、体全体が感染しにくい状態に保たれると考えられています。

★歯周病を予防しよう！

歯周病は、歯周病菌によって歯を支える骨が溶かされ、最終的には歯が抜けてしまう恐ろしい病気です。さらに歯周病は、今回ご紹介したインフルエンザだけでなく、糖尿病、心臓病、脳卒中、誤嚥性肺炎、メタボリックシンドロームなど、多くの全身疾患のリスクを高める「全身疾患の入り口」であることが、近年の研究で分かってきています。

歯周病予防には、毎日の歯みがきに加えて、歯科医院での定期的な検診と専門的なクリーニングが欠かせません。歯科医院では、普段の歯みがきでは取りきれない歯にこびりついた歯垢や細菌をしっかりと取り除くことができます。歯周病は、歯だけの病気ではありません。体の健康を守るためにも、3ヶ月に一度は歯科受診を心がけましょう。

